

# 羽村市における 幼・保・小・中 望ましい習慣の形成 — 社会の形成者としての基盤づくり —

習慣		幼稚園・保育園	小学校		中学校	
			第1学年～第3学年	第4学年～第6学年		
子どもの姿	大人	学校・園では	◆ 笑顔で挨拶、元気に返事、きれいに後片付けを行う。 ◆ 共同のものを大切に、みんなで使う。 ◆ 自分たちで遊び方やきまりをつくり、守って遊ぶ。	◆ 笑顔で挨拶、元気に返事、身の回りを整える。 ◆ 自分でできることはやり、よく考えて行動する。 ◆ 約束やきまりを守り、みんなで使う物を大切にする。	◆ 自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。 ◆ より高い目標を立て、くじけないで努力する。 ◆ 法やきまりを守り、自他の権利を大切に義務を果たす。	◆ 時と場に応じた適切な言動をとる。 ◆ より高い目標を目指し、希望と勇気をもってやり抜く。 ◆ 自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。
		家庭では	○ 教師・保育士が率先して挨拶等を行う。 ○ 物を大切に、譲り合って使うよう、声を掛ける。 ○ 遊び方やきまりをつくらせる。	○ 自分の持ち物の管理及び整理整頓をさせる。 ○ 自分で考え行動できるときに認め、褒め、励ます。 ○ 学校の約束やきまりについて指導を徹底する。	○ 自分で計画を立て、行動を振り返る機会を設ける。 ○ 自分の立てた目標を定期的に見直させる。 ○ 法やきまりの意義について指導する。	○ 時と場に応じた言葉遣いや行動について指導する。 ○ 自分の立てた目標の達成度を定期的を確認させる。 ○ 自分の言動について振り返る機会を設ける。
子どもの姿	大人	学校・園では	◆ 笑顔で挨拶、元気に返事、身の回りを整える。 ◆ うがいや手洗い、歯磨きなど病気を予防する活動を進んで行う。 ◆ 誰とでも仲良く、健康・安全に留意して意欲的に運動する。 ◆ 何でも残さず、食べる。	◆ 不安や悩みに対処するため、相談したり、運動したりする。 ◆ 活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わう。 ◆ 栄養の偏りのない食事を心掛ける。	◆ 自分なりのストレスの対処法をもち、実践する。 ◆ 目的に適した運動の計画を立て取り組む。 ◆ 食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を心掛ける。	
		家庭では	○ 朝の会で、起床から登園までの生活を振り返る機会を設ける。 ○ 戸外で遊ぶよう声を掛け、一緒に遊ぶ。 ○ みんなで一緒に食事をする楽しさを味わわせる。	○ 「一校一取組」、「一学級一実践」を充実させる。 ○ うがいや手洗い、歯磨きの仕方について繰り返し指導する。 ○ 休み時間外遊びをするよう声を掛けるとともに、みんなで一緒に遊ぶ工夫をさせる。 ○ 健康によい食事の摂り方を考えながら食べるよう指導する。	○ 自分で工夫して遊んだり運動したりする機会を設ける。 ○ 体に必要な栄養のバランスを考えさせる。 ○ 自分の生活を振り返る機会を設ける。	○ 学年・学級の枠組を超えた教育相談活動を行う。 ○ ストレスの対処法について指導する。 ○ 自分で続けられる運動を考えさせ、実行させる。 ○ 自分の生活スタイルを見直し、改善する機会をつくる。
子どもの姿	大人	学校・園では	○ 早寝・早起き・朝ごはんを実行する。 ○ 戸外で、友達と一緒に運動や遊びをする。 ○ 楽しい雰囲気の中で、食べ物を進んで食べる。	○ 早寝・早起き・朝ごはん、うがい、手洗い及び歯磨きなどを自ら行わせる。 ○ 家族で運動する機会を設ける。 ○ 家族で食卓を囲み、会話をする。	○ 子どもの小さな変化も見逃さないよう見守る。 ○ 食事の際、栄養のバランスを話題とする。	○ 親子でストレスに対処する方法を考え、実行する。 ○ 自分で継続できる運動を考えさせ、実行する。 ○ 栄養のバランスを考えた食事を自分で作る機会を設ける。
		家庭では	○ 早寝・早起き・朝ごはん、うがい、手洗い及び歯磨きなどを自ら行わせる。 ○ 家族で運動する機会を設ける。 ○ 家族で食卓を囲み、会話をする。	○ 好き嫌いをせず、食べさせる。		
子どもの姿	大人	学校・園では	◆ 身近な様々な人々と喜んで触れ合う。 ◆ 自ら挨拶を交わし、お礼の気持ちを述べる。 ◆ 思ったことなどを自分なりに表現する。	◆ 自ら挨拶を交わし、友達と仲良くし、助け合う。 ◆ 日頃、お世話になっている人々に感謝する。 ◆ 相手のことを思いやり、親切にする。	◆ 挨拶を習慣化し友だちと仲良く、助け合う。 ◆ 自分と異なる意見や立場を大切にする。(相互理解) ◆ 日々お世話になっている人に感謝し、伝える。	◆ 友達と互いに励まし合い、高め合う。 ◆ 人々の支えにより自分があることに感謝し、応える。 ◆ それぞれの個性や立場を尊重し、謙虚に他に学ぶ。
		家庭では	○ 高齢者をはじめ地域のひと々と触れ合う活動を工夫する。 ○ 教師・保育士が率先して挨拶、お礼の言葉を述べる。 ○ 友達同士で思ったことを伝え合う。	○ 学級全員で活動する機会を多く設ける。 ○ 職員や保護者等に感謝の気持ちを伝える機会を設ける。 ○ 帰りの会などで、友達のよさを伝え合う。	○ 子どもが協力して活動する機会を設ける。 ○ 周囲の方々の支えに気づき、感謝を伝える場を設ける。 ○ 多様な他者と触れ合い、助け合う活動を工夫する。	○ 互いに励まし合い、認め合っている姿を認め、褒め、励ます。 ○ 各行事について友達の頑張りを伝え合う機会を設ける。 ○ 多様な個性を認め、互いに学び合う機会を設ける。
子どもの姿	大人	学校・園では	○ 親戚等と会う機会を増やす。 ○ 親が率先して挨拶を交わし、お礼の言葉を述べる。	○ 友達と仲よく、助け合うことの大切さを伝える。 ○ 親が率先して相手の立場を考え、行動する。	○ 様々な人との関わりを家族で伝え合う。	○ 学校や社会の出来事などを家族で話し合う。
		家庭では	○ 子どもの話を受け止め、最後まで聞く。			
子どもの姿	大人	学校・園では	◆ 身の回りの事象に関心をもち、疑問を抱いて質問する。 ◆ 自分の考えを互いに言ったり、聞いたりする。 ◆ 絵本や物語に親しみ、自ら本に触れる。	◆ 関心のあること等から課題を決め、必要な事柄を調べる。 ◆ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。 ◆ 本を楽しんだり知識を得たりするため、本や文章を選んで読む。	◆ 考えたこと等から課題を決め、収集した知識や情報を関連付け整理する。 ◆ 互いの立場や意図をはっきりさせながら話し合う。 ◆ 複数の本や文章などを選んで比べて読む。	◆ 課題の解決に向け、多様な方法で情報を集め活用しながら自分の考えを深める。 ◆ 課題の解決に向け、互いの考えを生かして話し合う。 ◆ 目的に応じて本や文章を読み、自分の考えを深める。
		家庭では	○ 「ほかに考え方はないか。(多面的・多角的な視点)」、「筋が通って、分かりやすいか。(論理的思考)」、「本当にこれでよいか。(メタ認知)」という問いを子供が自ら発することができるよう指導する。	○ 日頃から疑問点等を書き留めておくよう指導する。 ○ 事柄の順序に気を付け、話に反応しながら聞くよう指導する。 ○ 読み聞かせを行うとともに、本を紹介する活動を設ける。	○ 収集した知識や情報を文章の構成や記述に役立つよう整理させる。 ○ 自分の考えと比べ、共通点と相違点を考えて聞くよう指導する。 ○ 各教科等で複数の文章を比べて読ませる。	○ 情報の収集・活用を繰り返しながら、自らの考えを再構築するよう指導する。 ○ 自分の考えや立場の違いを聞き分け、自らの考えの深化に生かすよう指導する。 ○ 読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考える機会を設ける。
子どもの姿	大人	学校・園では	○ 疑問や気づきを必ず受け止め、丁寧に答える。 ○ 読み聞かせを行うとともに、親が読書を楽しむ姿を見せる。	○ 学校での出来事を話題とし、毎日会話する。 ○ 家族で図書館に行く。(家族で読書を楽しむ)	○ 身近な事柄を話題とし、互いの考えを伝え合う。 ○ 家族で読んだ本の感想を伝え合う。	○ 家族で社会の出来事について話し合う。 ○ 家族で読んだ本を紹介し合う。
		家庭では				
子どもの姿	大人	学校・園では	◆ 家の手伝いをする。 ◆ 後片付けや当番活動を行う。	◆ 家の手伝いなどを進んで行い、役に立つ喜びを知る。 ◆ 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。	◆ 働くことの大切さと楽しさを知り、進んで働く。 ◆ 自分の役割を自覚し、協力して主体的に働く。 ◆ 社会に奉仕する喜びを知って公共のために働く。	◆ 働くことの意義を理解し、公共のために役立つことを行う。 ◆ 自分の役割と責任を自覚し、集団生活の向上のために働く。 ◆ 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって働く。
		家庭では	○ 手伝いをすると助かることを伝える。 ○ 自分から進んで取り組んだときに認め、褒め、励ます。	○ 学級において子ども一人一人に役割をもたせる。 ○ 「あなたがいて助かる」など、認め、励ます言葉掛けを行う。	○ 子どもも活動等を通して人の役に立つことを実感させる。 ○ 学級や学校に貢献していることを実感できるよう、声を掛ける。 ○ 地域の清掃活動などの機会を設定する。	○ 生徒会活動や地域と連携した活動の機会等を通して、人の役に立つことを実感させる。 ○ 学校や地域に貢献していることを実感できるよう声を掛ける。 ○ 職場体験等を通して、勤労の尊さや意義を理解させる。
子どもの姿	大人	学校・園では	○ 手伝いを決め、行ったことを確認させる。 ○ 片付け方を教え、教えたとおりにできるときに認め、褒め、励ます。	○ 自分で決めた手伝いを続けさせる。 ○ 子どもが「役に立っている」と実感できる声を掛ける。	○ 自分でできる家事を決め、取り組ませる。 ○ 家族で地域のボランティア活動に参加する。	○ 自分でできる家事を増やし、取り組ませる。 ○ 地域のボランティア活動等に参加させ社会奉仕の精神を養う体験を増やす。
		家庭では				